

すべての子どもたちへの心理的、教育的援助のあり方

I 研究の内容

学ぶことの目的は「生きる力」を身につけることである。すなわち、机の上の学びだけにとどまらない、自分の生活の中の課題を見つけ解決していく総合的な「生きていく力」である。しかし、そのなかでも大切な人間関係をはぐくむ能力である「ソーシャル・スキル」を学ぶ機会が、今の子どもたちには不足している。子どもたちは成長の過程で、本来は自然にソーシャルスキルを身につける。ところが、子どもたちが自然に身につけるのを難しくしている現状がある。子どもたちの放課後の過ごし方も大きく変化した。子ども達は塾やお稽古ごとで多忙になり、スケジュール調整をして、ごく少数の同年齢同性の友だちと屋内で遊ぶことが増えた。昔のように異年齢集団が屋外で遊ぶ場合には、遊びの中にソーシャルスキルを学ぶ機会がたくさんあったが、現在の遊びの形では限られたスキルしか学ぶことができない。子どもたちを取り囲んでいる環境も変わった。地域社会は子どもたちが安心して遊べる空間を失い、そこに住む人々の共同体意識も希薄になり、例えば隣近所のおじさん・おばさんが子どもに声をかけるなどということがみられなくなった。他人のことには干渉せず、道徳心や恥の感覚が薄れた大人が増えている。同時に、インターネットやケータイに代表されるような高度情報化社会の波が押し寄せている。

さて、前年度までの研究の中で、次の2点が確認された。

①子どもに対する援助のあり方は多方面に渡り、継続的に行う必要がある。

②予防的援助に力を入れることが、問題の顕在化を防ぐことにつながる。

これを受け、子どもたちに適切なソーシャルスキルを教えれば、今現在、特に問題を起こしていない子どもにとっても、将来の対人的な問題に対処する方法を身につけておくという意味で予防効果が期待できるはずだ。また、早い段階から人間関係に関する知識と反応の仕方を学んでおけば、子どもたちが今後出会う様々な対人的葛藤やストレスに対して、適切に対処できる可能性が増すはずだ。という考えのもと、今年度もソーシャルスキルのトレーニングを取り入れた授業実践を計画し取り組んだ。

II 研究の具体的な内容と方法

1 学校教育相談についての理論学習等

- (1) エゴグラム
- (2) アサーショントレーニング
- (3) ソーシャルスキル

2 専門家を講師に招いての研修

- (1) 講師
- (2) 日時 平成21年 8月 3日(月)
- (3) 場所 山梨南中学校 第Ⅱ相談室
- (4) 内容 児童虐待の現状について、児童相談所との連携について

3 授業研究

- (1) 日時 平成21年 9月 2日(水)
- (2) 場所 山梨南中学校 1年5組
- (3) 題材 「学園祭に向けて自分の目標を作ろう」
- (4) 授業者 宮本 睦子 教諭
- (5) ねらい 今まで学習したソーシャルスキルを意識しながら活動できる。
- (6) 研究授業における成果と課題

今回の授業では、今までに学習したソーシャルスキルを意識しながら活動し、発表力・話の聴き方・協調協力性・相互理解を身につけさせることを目的とした。授業後の研究会では、中学生活にも慣れ、初めての学園祭にのぞむ時期にもってこいの授業であったのではないかという意見や、平素のソーシャルスキルのトレーニング(入学以来7つ)の効果が出ていて、クラスの雰囲気プラス方向に動いているのがよくわかった。という意見や感想が出された。

4 県外研修の実施

- (1) 日時 平成21年10月30日(金)
- (2) 方面 東京都庁および最高裁判所

Ⅲ 成果と課題

- ・「ワンネス・ウイネス・アイネス」の考え方は、日頃何となく感じていた事を理論として確認するよい機会だった。
- ・様々な資料提供や具体的な言葉かけなどで、「子どもの心とどう向き合うか」のヒントをいただき、大変ためになった。また、自分を振り返る良い機会となった。
- ・研究授業では、「計画的な集団づくりの手だて」を知ることができとても役だった。理論研究で学んだことが検証できた。
- ・県外研修では、貴重な経験ができ有意義なものであった。

昨年度より、予防的援助をとりいれた学級活動を小学校・中学校ともにしくみ、実施してきた。それをうけて今年度も上記のような研究を行った。今後も、予防的援助という側面を意識して、年間を通して計画的に、ソーシャルスキルのトレーニングを数多くとりいれていきたい。

(部長 古屋真吾)